

中野区地域包括ケア総合アクションプランの進捗状況について

区では、平成29年3月、将来にわたり持続可能な地域包括ケアシステムの構築を目指し、喫緊の課題である高齢者への対策を中心とした「中野区地域包括ケアシステム推進プラン」を策定した。その後、区では支援が必要なすべての人を対象とした「中野区地域包括ケア総合アクションプラン」(以下、「総合プラン」という。)を令和4年3月に改定し、地域包括ケアの関係者間で共有し、取組を進めてきたところである。この度、令和4年度の総合プランの取組状況を取りまとめたので報告する。

1 令和4年度の柱1から柱8の取組状況

別紙参照

2 主な目標値の状況

柱1 本人の選択・権利擁護

目標値に対してプラス	<ul style="list-style-type: none">● 成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の周知理解を進めるための講座や勉強会の参加人数● 主治医と十分連携が取れているケアマネジャーの割合
目標値に対してマイナス	<ul style="list-style-type: none">● オレンジカフェ等認知症の人やその家族が集える場所の設置数

柱2 住まい・住まい方

目標値に対してプラス	<ul style="list-style-type: none">● あんしんサポート事業の登録者数● 区民活動センターを身近に感じる人の割合
目標値に対してマイナス	<ul style="list-style-type: none">● 住まい周辺の生活環境について、「景観や街並みについて」を「よい評価」とした区民の割合

柱3 健康・社会参加・学び・就労

目標値に対してプラス	<ul style="list-style-type: none">● 60歳代における地域活動を行っている割合
目標値に対してマイナス	<ul style="list-style-type: none">● 自身の健康状態が「よい」と思う区民の割合● 地域活動やNPOなどの活動に参加した20歳代、30歳代の割合

柱4 地域の見守り支えあい

目標値に対してプラス	<ul style="list-style-type: none"> ● 社協が進める「まちなかサロン」の参加人数（延べ参加人数） ● 子どもの貧困に取り組む団体数
目標値に対してマイナス	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会的孤立にある人や生きづらさを抱えた方（ひきこもりや外国人世帯等）も含め、様々な区民が参加できる居場所の数

柱5 生活を支えるサービス・生活を豊かにするサービス

目標値に対してプラス	<ul style="list-style-type: none"> ● 「長期療養が必要になった場合に可能な限り自宅や実家で過ごしたい」人の割合 ● 体操や軽運動など介護予防のための通いの場への参加状況
目標値に対してマイナス	

柱6 地域医療

目標値に対してプラス	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の救急医療体制が整っていると思う人の割合 ● かかりつけ医を決めている区民の割合
目標値に対してマイナス	

柱7 セーフティーネット

目標値に対してプラス	<ul style="list-style-type: none"> ● ひきこもり等の生きづらさを抱えた方の新規相談件数
目標値に対してマイナス	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティア活動者数（ボランティア保険加入者数）

柱8 子どもと子育て家庭、障害者及び高齢者特有の課題

目標値に対してプラス	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て応援とうきょうパスポート協賛店舗数
目標値に対してマイナス	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て支援活動に参加した区民の割合

中野区地域包括ケア総合アクションプラン全体の達成目標			
指標	2021年度以前 実績値	2022年度 実績値	2025年度 目標値
中野区への愛着度 区が行う「中野区区民意識・実態調査」で中野区に「とても愛着を感じている」「どちらかといえば感じている」をあわせた割合をいう。	83.0%	85.8%	93.0%
多様な人々が暮らす中で、 人権や価値観が尊重されていると思う区民の割合 区が行う「中野区区民意識・実態調査」で「国籍や文化、年齢、障害、性別などが異なる多様な人々が暮らす中で、人権や価値観が尊重されている」について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合をいう。	45.2%	48.2%	55.2%
地域活動への参加割合 区が行う「健康福祉に関する意識調査」で「地域活動に参加していない」と「無回答」の割合を全体(100%)から除いた割合をいう(令和2年度の地域活動に参加していない割合は「79.3%」無回答は「1.1%」)。	19.6%	20.9%	29.6%
「誰一人取り残されることのない支援体制が整っている と思う区民の割合」 区が行う「中野区区民意識・実態調査」で「障害や生活困窮、生活上の様々な課題や困りごとを抱えても、相談や支援が受けられる体制が整っている」について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合をいう。	30.6%	31.1%	40.6%
居場所等の活動団体数 ここでは、区内に拠点があり、子育て広場、住民主体の介護予防事業、まちなかサロン、子ども食堂や無料塾等、区に登録しているオレンジカフェを主催する団体、及び高齢者会館運営受託団体を「居場所等」とし、各々を合わせた数をいう。	123団体	136団体	135団体

【柱1】 本人の選択/権利擁護								
課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値	
(1)権利擁護の推進と理解促進	●「子どもの最善の利益」を考える地域社会の実現に向けて、区民等が子どもの権利を理解するとともに、子どもたちが自らの権利を理解し、他者の権利を尊重できるよう、意識の啓発を図る。また、「子どもの最善の利益」を考え、区の様々な施策を実施する。	★子どもの権利擁護の推進 ○子どもの権利擁護に係る条例の制定 ○学校における人権教育	子ども・教育政策課 ほか	子どもの権利が守られていると思う区民の割合	—	—	26.4%	30%
	●関係機関との連携を図りながら、判断能力が十分でない人等の意思や利益が守られるよう権利擁護を推進する。	○成年後見制度・地域福祉権利擁護事業に関する相談 ○成年後見制度出前勉強会、成年後見制度講座・講演会など区民関係者向け周知・理解促進(成年後見制度推進事業は区委託)	中野区社会福祉協議会	○成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の周知理解を進めるための講座や勉強会の参加人数 ○専門職等による多職種連携を丁寧に行うための事例検討会や情報交換会の開催	156人 年1回	527人 (区民向け講演会・研修会…8回148人 出前説明会・勉強会…22回379人)	—	300人 年4回
	●障害の有無に関わらず、互いを尊重し、共生できる社会の実現に向けて、障害者に対する差別的解消と区民や事業者等の理解の促進を図る。	○学校公開 ○教員向けの研修会で理解啓発 ○学校間交流による交流及び共同学習 ○副籍交流による地域交流で共生社会に向けての理解啓発	東京都立中野特別支援学校	—	—	—	●学校公開(2回/年)を実施。 ●専門性向上研修会(延べ450名の参加)を実施。 ●学校間交流(5校と延べ11回/年)を実施。 ●直接交流(37名/小・中学部)を実施。	—
		○区内の小中学校への働きかけ ○出前講座 ○交流事業等	障害者自立支援協議会 差別解消部会	—	—	—	●区内小中学校へ働きかけを行い、障害者理解啓発を目的とした出前講座を2回実施した。参加者延べ約240名。 ●区内民間事業者(公共交通機関、金融機関)との意見交換を行った。	—
	●認知症の有無に関わらず、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、認知症の理解促進と地域での対応力の向上を図るとともに、認知症の人やその家族の意思を踏まえて、予防、早期発見・早期対応及び居場所づくりの取組を進める。	○認知症の気づきと関係機関連携 ○認知症サポーター養成講座受講推進(地域包括支援センター、地域包括ケア推進課との連携)	中野区民生児童委員協議会	—	—	—	民生児童委員協議会の高齢福祉部会では、全体会の中で認知症サポーター養成講座を受講し、認知症に関する理解を深めた。	—
		○中野区友愛クラブ連合会役員ならびに単位クラブ会長の認知症知識の習得。 ○順次地区連合会及び単位クラブリーダーへ拡大する。 ○認知症予防を題材としたシンポジウムや地区ごとの懇談会を開催し、予防に対する意識の高揚と日常生活における実践に繋げる。(区、医師会との連携)	中野区友愛クラブ連合会	継続的に以下に取り組む。 ①月例の役員会/会長会にて「認知症への向き合い方」をテーマに、医療、ケアの専門家より学ぶ。 ②シニア大学・フォーラム「人生100歳時代～愛が行き交う中野のまちへ～」にて認知症をテーマに行う。 ③地区連合会ごとの「認知症」をテーマとする学習会の取り組み促進。	—	—	①役員会、会長会は計画に沿って実施したが、課題とした「認知症問題」は意識的に計画・実施しなかった反省が残った。ただ、東京都老人クラブ連合会主催の「認知症とともに生きるための備え」講師：東京都医学総合研究所 社会健康医学研究センター・西田淳志先生の講座を松本他で受講し、令和5年度シニア大学健康講座のテーマに取り上げることと決定。西田淳志先生の承諾をいただいた。 ②シニア大学・フォーラム「愛」が行き交う中野のまちへ！人生100歳時代！高齢者が安心して住める中野のまちへ！は、サブタイトルを「増やそう仲間を！目指そう魅力あるクラブ活動を！！」とし、藤井部長の「人口学的にみる中野区の高齢化」と題した基調講演とモデルクラブによるパネルディスカッションを行った。認知症問題とは直接的な関連性を欠いたが、超高齢化が進化する中で、認知症に向き合い、認知症をはじめ高齢者特有の健康障害を防止する重大な役割を再認識した。 ③地区連合会においても、会員増員対策を重点課題としたため、認知症対策は令和5年度に見送る形になった。	—

【柱1】 本人の選択/権利擁護

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(1)権利擁護の推進と理解促進	●認知症の有無に関わらず、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、認知症の理解促進と地域での対応力の向上を図るとともに、認知症の人やその家族の意思を踏まえて、予防、早期発見・早期対応及び居場所づくりの取組を進める。	○認知症サポーター養成講座を受講し、地域の認知症の方を見守り、サポートする ○高齢者が外出するきっかけとなる商店街を目指す	中野区商店街連合会	—	—	新型コロナウイルス感染症対策のため、活動を縮小した結果、取組を自粛した。次年度は、感染状況及び感染症の状況を見極めながら、活動を再開したい。	—
		○活動組員向けの認知症サポーター養成講座の実施 ○認知症に関する学習会の開催	生活協同組合コープみらい	—	—	・活動組員向けの認知症サポーター養成講座を実施(参加者数45名)。	—
		高齢者等をケアしている介護者家族(ヤングケアラーも含む)に関して、早期発見や介護や福祉の仕事や現状について子どもたちへの理解促進活動	中野区介護サービス事業所連絡会	—	—	・介護者である家族の学びの場として「家族介護教室」を4回実施した。認知症等に関する講義や、家族の負担軽減につながる相談支援を行った。 ・介護ヘルパー向け「認知症についての勉強会」を11月に実施し、講義、情報提供を通して、理解を深め介護活動の促進、向上を図った。 ・それぞれの事業所に、相談に来所した家族や地域の方に対して、随時相談支援を行った。 ・認知症の普及啓発イベントのRUN伴+なかの2022に後援として協力した。 ・ヤングケアラー地域支援推進協議会を通じて子供たちの居場所を構築した。	—
		中野区オレンジカフェ連絡会やRUN伴なかのの相談窓口	NPO法人ピクニックケア	—	—	中野区オレンジカフェ連絡会をオンラインで開催。随時区民の認知症相談や参加支援を行った。 9月17日(土)中野区役所をゴールとして350名以上の参加者、11社の協賛企業、9つの後援団体にて開催し様々な参加支援を行った。	—
		認知症介護の集い。情報交換を通じて少しでも介護を楽にミニサロン 子ども～高齢者まで茶飲み話の場	花みずきの会	—	—	●認知症介護の集い 対象:家族 場所:松が丘シニアプラザ 内容:話し合い、情報交換、仲間作り 実績:第1月曜日年8回実施 ●介護サロン 対象:一般介護、介護を知りたい人、ヤングケアラー 場所:江古田区民活動センター 内容:話し合い、情報交換等 実績:第2土曜日年7回実施 ●ミニサロン 対象:子ども～高齢者(おしゃべりしたい人ならだれでも) 場所:江古田区民活動センター 内容:仲間作り 実績:第3土曜日年9回開催	—
○認知症サポーター養成講座の出前講座を随時実施 ○地域住民の認知症に対する理解を進めるための啓発活動 ○MIKAN会員と地域生活で欠かせない企業、行政、警察、消防、社協、民生児童委員、学校の関係者を一同に会して交流を図るためのイベントを実施予定	認知症みんなで考える中野ネットワーク(MIKAN)	—	—	①地域見守り支えあいの取り組み支援(みまもも桃園立ち上げ、お出かけ安心キーホルダー作成、サロン実施等) ②認知症サポーター養成講座の開催(6回:対象一自治会、区民、商店街、中学校、中学校教師、大学) ③ダイバーシティフェスタにMIKAN博覧会として参加(講演、セミナー、VR体験、会員活動ブース)	—		

【柱1】 本人の選択/権利擁護								
課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績		2025年度の目標値
(1)権利擁護の推進と理解促進	●認知症の有無に関わらず、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、認知症の理解促進と地域での対応力の向上を図るとともに、認知症の人やその家族の意思を踏まえて、予防、早期発見・早期対応及び居場所づくりの取組を進める。	認知症の方、その家族の方、ご近所の方が相談できる・集える場所の提供	中野区登録オレンジカフェ及び中野区オレンジカフェ連絡会	—	—	●年間実施回数●		—
						オレンジカフェ土屋	2回	
						オレンジカフェアロハ	12回	
(3)区民が望む在宅療養生活の実現	●高齢期も住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、支援が必要な人に適切な医療や介護・生活支援サービスを提供するとともに、ライフスタイルや身体機能に応じて住まい方の選択ができる環境づくりを進める。	★認知症バリアフリーに向けた意識の啓発 ○認知症普及啓発 ★認知症の人を支える地域の相談支援体制等の整備 ○認知症相談支援事業 ○若年性認知症相談支援事業 ★認知症の人やその家族・支援者の居場所づくり ○認知症地域支援推進事業	地域包括ケア推進課	①オレンジカフェ等認知症の人やその家族が集える場所の設置数	19か所	17か所		25か所
				②認知症の症状や基本的な対応方法を知っている人の割合	27.3%	28.1%		45%
(3)区民が望む在宅療養生活の実現		★区民それぞれが望む在宅療養生活の実現 ○ACP(アドバンス・ケア・プランニング)普及啓発 ○在宅療養相談窓口 ○在宅療養推進事業	地域包括ケア推進課	①主治医と十分連携が取れているケアマネジャーの割合	43%	47.8%		55%
		★在宅から入所まで高齢者を支える基盤整備 ○介護サービス基盤施設整備・誘導 ○住宅確保要配慮者入居支援事業	介護・高齢者支援課、住宅課	②「長期療養が必要になった場合に可能な限り自宅や実家で過ごしたい」人の割合	32.70%	36.4%		60%

【柱2】住まい・住まい方

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(1)居住支援体制の推進	●住宅確保要配慮者への居住支援を推進する。	高齢者、身体精神障害等の要支援者、現在のコロナ禍において急激に増えている生活困窮者、低所得者等支援が必要なすべての人に対し、安心して暮らせる住まい探しをサポート	不動産関係団体 居住支援法人 (公社)東京都宅地建物取引業協会 第十ブロック 中野区支部	—	—	●「あんしんすまいパック」の周知を徹底した。 ●各種「セミナー」「シンポジウム」で、住宅確保要配慮者の成約事例について発表・検証した。 ●支部会員配布物やメールで居住支援に関する「セミナー」等のチラシを周知した。	—
		住まい、不動産の状況、特に健全な生活を営むために支障が出ている方々へ、トラブル解消の為のアドバイスや求めに応じた物件などの紹介	(公社)全日本不動産協会 中野・杉並支部	—	—	6月2日「不動産、住まいの無料相談会」中野区役所で開催、相談者：35名。 年間を通して居住支援協議会への協力、高齢者等の要負貸住宅支援者へ当支部の協力店が物件を紹介。同協議会への役員、委員の派遣、等	—
		福祉何でも相談への相談者を中野くらしサポートや中野居住支援協議会につなぎ、本人が安心して暮らすことができる居住確保を支援	中野区社会福祉協議会	①居住確保が困難な方について、中野区居住支援協議会と連携して入居につながるケース数 ②あんしんサポート事業の登録者数	0件 32件	1件 43件	年10件 45件
		関係機関内での情報共有 ○中野区居住支援協議会	中野区民生児童委員協議会	—	—	中野区居住支援協議会会員の構成団体である中野区民生児童委員協議会から2名が事業運営部会員に派遣されており、会議等に参加した。	—
	●居心地が良く、歩いて楽しくなるまちづくりに向け、土地の高度利用・有効利用を図るとともに、ゆとりある空間の創出や良好な景観形成の誘導を進める。	地域特性を生かした土地利用の推進 ○効果的な土地の高度利用、有効利用の推進 良好な住環境を構築する景観形成の推進 ○景観まちづくりの推進	都市計画課	①定住意向理由として「自然や街並みがよい」を選択した区民の割合 ②住まい周辺の生活環境について、「景観や街並みについて」を「よい評価」とした区民の割合	9.4% 72.7%	9.3% 70.5%	10% 75%
(2)在宅生活が困難な場合のケアを行う施設の確保	●高齢期も住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、支援が必要な人に適切な医療や介護・生活支援サービスを提供するとともに、ライフスタイルや身体機能に応じて住まい方の選択ができる環境づくりを進める。	★在宅から入所まで高齢者を支える基盤整備 ○介護サービス基盤施設整備・誘導 ○住宅確保要配慮者入居支援事業	介護・高齢者支援課、住宅課	①主治医と十分連携が取れているケアマネジャーの割合	43%	47.8%	55%
				②「長期療養が必要になった場合に可能な限り自宅や実家で過ごしたい」人の割合	32.7%	36.4%	60%
(3)バリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくり	●地域住民の様々な交流・活動拠点である区民活動センターを、身近な施設として誰もが快適に利用できるよう運営・整備を進める。 ●外国人住民等が地域で安心して暮らすことができるよう、多言語やさしい日本語での情報提供や相談対応など、生活に必要な基盤の充実を図る。	★誰もが快適に利用できる区民活動センターの環境整備 ○区民活動センター整備	地域活動推進課	①区民活動センターを身近に感じる人の割合	16.7%	19.0%	20%
				日本語の学習を希望する人に対する、ボランティアによる学習支援(子ども連れの学習者も支援対象として受入れ)	江古田日本語教室	—	—

【柱3】健康・社会参加・学び・就労

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(1)健康的な生活習慣の定着支援、健康づくり、感染症対策	<ul style="list-style-type: none"> ●区民が身近な場所で運動・スポーツ活動を行うことができる機会・環境を整えるとともに、運動・スポーツを通じた区民同士の交流や地域コミュニティの形成を進める。 ●区内スポーツ団体と連携しながら、区民の自発的な運動・スポーツ活動を推進するとともに、健康づくりや教育、障害者スポーツの普及など、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機とした取組を進める。 ●子どもの運動への親しみや健康の保持増進、体力の向上に向けた取組を進め、運動習慣の形成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ★誰もが運動・スポーツに取り組む環境づくり ○オリンピック・パラリンピックレガシー事業 ○スポーツ推進事業 ○スポーツ施設運営 ○区立小・中学校体育施設一般開放事業 スポーツを通じたコミュニティの形成 ○地域スポーツクラブ事業 	スポーツ振興課	①1回30分以上の運動を週に1～2回以上行っている区民の割合	56.7%	57.1%	60%
	<ul style="list-style-type: none"> ●栄養・運動・休養の調和がとれた健康的な生活習慣の定着に向けて、区民一人ひとりのライフステージに応じた健康づくりを進める。 ●疾病の早期発見・早期治療を促進するため、各種データの収集・分析等に基づく健康づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養・食生活の面からの区民の健康づくり ○(区の受託事業)高齢者会館での栄養講座や料理教室、栄養調査 ○(医師会の受託事業)生活習慣病指導、子育て応援団(食に関する講座、個別相談)の講師派遣 ○料理教室(高齢者向け、視覚障害者向け、男性向け、子供向け) 	中野区フリー活動栄養士会	—	—	1.高齢者会館での栄養講座(本一・つつじ・薫六・しんやまの家) 2.医師会での栄養相談 3.歯科医師会での栄養講座 4.江古田図書館での地域の方向け業膳講座 5.視覚障害者への栄養講座	—
	健康的な生活習慣の定着支援	<ul style="list-style-type: none"> ○精神保健相談 ○地域健康活動支援 ○健康づくり普及啓発 ○熱中症に対する啓発 	保健企画課 保健予防課 すこやか福祉センター	①自身の健康状態が「よい」と思う区民の割合	85.7%	81.9%	90%
	データ分析や健診等による健康づくりの支援	<ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣病予防対策事業 ○禁煙治療費助成 ○受動喫煙防止対策事業 ○がん等健診の実施及び受診勧奨事業の実施 ○データヘルズ事業 	保健企画課	②食べ物や食生活に関して栄養バランスや規則正しい食生活を心がけている人の割合	58.8%	55.1%	63%
	食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○食育推進事業 ○歯と口腔の健康事業 	保健企画課 保健予防課 すこやか福祉センター				

【柱3】健康・社会参加・学び・就労

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値	
(1)健康的な生活習慣の定着支援、健康づくり、感染症対策	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルスなど、区民生活に影響を与える感染症に対応するため、ライフステージや集団の特性に応じた感染症予防策の啓発を行うとともに、各種予防接種の受診率向上や、高齢者及び外国人の結核患者に対する支援、平常時の感染症の発生・拡大予防の取組を推進する。 ●関係機関とのネットワークの構築やリスクコミュニケーションの推進により、薬剤耐性菌や院内感染など、様々な対策の情報共有を行い、感染症の予防と拡大防止の強化を図る。 	感染症予防に向けた意識の啓発 ○施設等に対する感染症予防指導 ○感染症予防普及啓発 感染症の拡大防止策の強化 ○定期・任意予防接種 ○積極的疫学調査 ○結核対策 ○服薬確認推進事業	保健予防課	①感染症の予防を心がけている人の割合	97.3%	94.8%	98%	
		感染症対策に係る関係機関の資質の向上 ○地域感染症対策ネットワーク構築 ○感染症発生動向調査	保健企画課 保健予防課					
(2)就労や地域活動を通じた社会参加の促進	<ul style="list-style-type: none"> ●中高生が自由に自己表現したり、将来に向けて興味・関心に応じた体験などができる機会や場の充実を図る。 ●区内の大学や専門学校等の学生が、その専攻分野等を地域で生かせる機会の充実を図る。 ●若者ならではの視点を区政や地域に生かすとともに、若者と地域のつながりを構築する。 	総合的な若者施策の推進 ○(仮称)中野区子ども・若者計画の策定	育成活動推進課 子ども・教育政策課	①地域活動やNPOなどの活動に参加した20歳代、30歳代の割合	20%	11.5%	45%	
				②地域社会などでボランティア活動に参加したことがある中学生の割合	60.7%	54.0%	73%	
		大学生等の地域活動の促進 ○若者地域活動支援事業 ○大学との包括連携事業	育成活動推進課 地域活動推進課 企画課					
		<ul style="list-style-type: none"> ●就労や地域活動等により、いくつになっても居場所を持ち、活躍できる環境の充実を図る。 ●興味・関心や趣味を通じた多様な形での交流・つながりが生まれる環境づくりを進める。 	★就労や地域活動を通じた社会参加の促進 ○地域人材育成・マッチング事業 ○シルバー人材センター支援事業 ○高齢者就労支援事業	地域活動推進課 産業振興課 ほか	①収入のある仕事を週1回以上している65歳以上の区民の割合	27%	25%	35%
	★孤立を防ぐつながり・交流機会の充実 ○友愛クラブ活動支援事業 ○地域団体活動支援事業	地域活動推進課 介護・高齢者支援課	②60歳代以上における地域活動を行っている割合	60歳:22.7% 70歳:38.3% 80歳以上:36.5%	60歳:35.1% 70歳:27.3% 80歳以上:35%	45%		

【柱3】健康・社会参加・学び・就労

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(2)就労や地域活動を通じた社会参加の促進	●障害者の自立した生活を支えるため、障害者の就労促進と就労を継続するための支援を行うとともに、障害者就労継続支援事業所における安定的な仕事の確保と作業力向上に向けた支援を進める。	障害のある方へ ○相談支援 ○生活支援 ○就労支援 ○居宅介護 等	障害福祉サービス事業所	—	—	●東京コロニー● 障害分野の事業運営は、就労活動で得た利益は工賃に還元することが目的であり、自立支援給付では運営していくギリギリの収入でしかない。地域包括ケアの一員として活動の場を広げるためには、余裕のある経営状況を確保する必要がある。 数値目標は特に定めていないが、就労移行支援事業は、移行後の定員が空いてしまい確保できない状況が数年続いている。 コロナ禍の影響により、就労活動の自粛を余儀なくされた状況が続いたが、区内の就労継続支援事業所と連携し、共同受注活動を継続し、施設利用者の工賃確保に資する活動に取り組んだ。 ●社会福祉法人中野あいいく会● 公園清掃・子供向け雑誌の封入・ポスティング等を行っています。新規の仕事としては、小学校一年生が入学時につける交通安全ワッペンの封入やアマゾン倉庫への出荷準備(バーコード貼り等)があった。	—
		○障害者手帳所持者への就労支援 ○今後は、困難を抱えているが障害者手帳を取得できない人、療育手帳を取得しそびれてしまった人、引きこもりの人、障害者手帳の取得が難しい難病患者、女性、高齢者、犯罪者、生活困窮者、LG BT等、制度のはざまにいる人たちの就労支援、また雇用を進めようとする企業に対しての支援も検討	中野区障害者福祉事業団	—	—	●2022年度 就労支援センターでの就労実績57名。 新型コロナウイルス感染症の影響による失業等を要因とする生活困窮の相談が増加し、公的サービスへとつなげるケースが多かった。	—
(3)生涯学習の機会の充実	●いつでもどこでも生涯を通じて主体的に学び続けることができる環境づくりを進める。	人が集まり交流する機会となる各種イベント、セミナーの開催支援	明治安田生命保険相互会社 新宿支社	—	—	●なかの東北応援まつりに協賛。健康測定ブースを設営。2日間で計300名以上の方に参加いただく。	—
		生涯学習の機会の充実 ○社会教育大学連携事業 ○社会教育訪問学級事業 ○子ども向け体験学習事業 ○生涯学習普及啓発	区民文化国際課	①「区内において様々な学習機会が充実している」と感じる区民の割合	19.2%	16.7%	30%

【柱4】 地域の見守り支えあい

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値	
(1)地域における見守り支えあいの推進と、交流の場や機会の創出	●気軽に地域の情報に触れ、中野のまちに関心や愛着を持ち、区や地域を身近に感じることができるための取組を進める。 ●常日頃からの近所同士のつながりやあいさつ等、互いの顔が見え、困りごとがあった時に助け合えるような人間関係が構築される取組を進める	昔ながらのカレーを中学生までには無料で提供し、誰でも食事を楽しく食べられるとともに、高齢者のひとり暮らしの方が来て交流ができる場としてよりどころを提供	みんなの食堂 南中野カレーの会	—	—	コロナ感染予防の為にテイクアウトで実施し参加延べ人数5,829人です。	—	
		居場所のない人や子育てが忙しい人のほか、初期認知症の人に対し傾聴(誰もが愛される存在であるということを感じてもらい)の場や食事の提供 実家の様に過ごせる場所を目標としている	ききみみサロン	—	—	実施回数:11回 / 年 参加者数:105名/延べ *2023.1月までは、すべて無料。 食事が儘ならない方向けに昼食を提供。 その他の参加者にはお裾分けとして持ち帰り用惣菜を提供。 *2023.2月から参加費100円昼食代0円~400円に切り替え、昼食提供を開始。	—	
		求めてくれるすべての人に傾聴(安心して何でも話せる)の場を提供	傾聴ボランティアきくぞう	—	—	1対1での傾聴活動を実施 ●野方区民活動センター 1回/月 延36名 ●なかのZERO西館 1回/月 延34名 ●新井区民活動センター 1回/月 延18名 他、介護事業所等でも実施	—	
		○居場所提供(ミニデイ・子育て広場) ○家事援助(掃除、買い物、通院付き添い等) ○託児・話し相手(相談含む)	オアシスなべよこ	現状維持(コロナ前) 月1回高齢者ミニデイ、月2回子育てひろば 家事援助、託児等	—	—	高齢者ミニデイ10日開催(4月8月休み)開催はしましたが、昼食の提供はできませんでした。子育てひろば「いつでもおいデイ」時短で15回開催。講演会1回、研修会2回。	—
		人と人とが繋がる場の創出	NPO法人 リンク東山	年12回実施	—	—	●東山文化講座:10回実施。参加延人数210人 ●東山まつり:コロナ禍のため中止 ●折り紙教室:19回実施。参加延人数186人保育園児との交流はコロナ禍で中止。 ●東山サロン:10月再開。12回実施。参加延人数257人	—
		○映画上映会 みやもシアター ○週替わりカフェ みやもカフェ、ほっとサロン南口 オレンジカフェ、ももぞの茶屋	みま~も桃園	—	—	—	グループとしてカフェ、無料シアターの開催。 ①みやもカフェ第1木曜日 ②ホットサロン南口第2、第4木曜日 ③ももぞの茶屋第2水曜日 ④みやもシアター(無料映画会) ⑤陽だまりの輪カフェ第3回曜日、交流会第4土曜日に開催した。 参加者数はカフェ1回あたり30人~40人が参加している。 月間では130人~150人程度の参加者数となっている。	—
		ひな祭り、七夕、クリスマスなどにイベントを開催	やよいボランティアコーナー	—	—	—	5/20 総会 5/24 車いす講習会 20名参加 6/17 30周年記念式典 49名 7/6 セク食会 9/16 協会員交流会 26名 10/16 地区まつりにバザー出店 11/18 講演会「特殊詐欺の被害防止について」 26名 12/20 クリスマス食会 1/20 協会員新年交流会 33名 2/17 役員・調整役のスマホ教室 3/3 ひな祭り食会 3/18,19 フードバントリー協力 5名 その他、毎週火曜・金曜午前中に電話相談受付対応。 毎月第三火曜サロン開催 ※近隣の施設へのお手伝いは、新型コロナウイルスのため中止	—
		ミニサロンやランチの集いなどを開催	南中野ボランティアコーナー	—	—	—	ミニサロン、ランチの集いを月1回実施	—
		子育て世帯の方が活用できるよう、当事者目線で作成した商店街マップを提供	中野区商店街連合会	—	—	—	新型コロナウイルス感染症対策のため、活動を縮小した結果、取組を自粛した。次年度は、感染状況及び感染症の状況を見極めながら、活動を再開したい。	—

【柱4】 地域の見守り支えあい

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(1)地域における見守り支えあいの推進と、交流の場や機会の創出	<p>●気軽に地域の情報に触れ、中野のまちに関心や愛着を持ち、区や地域を身近に感じることができるための取組を進める。</p> <p>●常日頃からのご近所同士のつながりやあいさつ等、互いの顔が見え、困りごとがあった時に助け合えるような人間関係が構築される取組を進める</p>	宅配サービス、店舗での見守り活動	生活協同組合コープみらい	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・中野区内 宅配時の見守り活動からの連携・対応事例 3件 ・中野区内店舗での救護事例 2件 	—
		○区民活動センターでの様々なグループの活動への入り口の提供 ○おしゃべりできる場の提供	新井区民活動センター運営委員会	—	—	新型コロナウイルスの影響で不特定多数を対象とする居場所作りのサロン活動は行わなかった。	—
		いろいろとりどり 障害児者とその家族向けの茶話会、企画講座など開催、ペアレントメンター活動、安心して過ごせる居場所提供等	NPO法人わかみやクラブ	—	—	茶話会(相談会)24回延べ149人参加 ミニ講座・企画講座 6回延べ73人参加 発達障害青年居場所(いろいろユース) 6回延べ参加46人	—
		○ATMや窓口での振り込み手続きや大口の現金支払いを申し出てくる来店客に対して「振り込み詐欺」かもしれないという目線で声をかける。場合によって警察署とも連携 ○「困っている来店客」へ特に丁寧な対応を心がける	みずほ銀行 中野支店	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ●ATMや窓口の手続で当行側が心配に感じる手続内容については、お客さまの尊厳を大切にしながら都度丁寧にヒアリング。防犯上危ないと思う手続は別の方法を提案する等声かけを行った。 ●また個人営業課は担当顧客との接点を強化し、困った際の相談相手となる信頼関係を構築。振り込み詐欺未然防止で警察からも表彰された。 	—
		来店客で様子が気になる方がいれば声かけするなど、ゆるやかな見守りを行う	(株)セブンイレブンジャパン	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ●各加盟店の協力により、来店されるお客様の様子について、ゆるやかな見守りを実施。その場の状況や必要に応じて、声掛けをするなどの活動に取組み。 	—
		○配達時に組員や配達エリアの住民の見守り(先週の配達物が残っていないか、郵便ポストに新聞や郵便物がたまっていないか等) ○見守り安心サービスに登録している組員には、毎週配達した際に在宅・不在などの状態を家族の方のメールアドレスに配信	生活協同組合 バルシステム 東京 練馬配送センター	—	—	<p>9/27「Zoom学習会」及び見守り安心サービスのご案内</p> <p>1/23 PM/練馬区高齢者見守り連絡会に参加</p> <p>1/26 バルシステムの委員会向けに見守り安心 サービスの説明を開催</p> <p>1/27 ICT機器活用事例紹介講座に参加</p> <p>3/3 見守りICT機器活用事例紹介講座に参加</p> <p>※3月21日(火)に「見守り安心サービス」広報メールを全組員(見守り安心サービス利用者除く)に配信しました。</p>	—
		○地域見守りネットワーク会議への参加 ○会館会議室や地域交流スペースの活用による区民交流の場の提供 ○災害ボランティア講座の開催	東京都生活協同組合連合会	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ●桃園フードパントリーへの当日運営協力。会員生協よりお米を寄贈、また当会会館でフードドライブを実施し、物資を提供。 ●生協組員・役員向けに災害ボランティア養成講座を開催。プログラムに当会会館周辺の防災まち歩きを実施。中野視覚障害者福祉協会、近隣町会のご協力により実施。 ●当会会議室での中野区元気アップ体操や地域の学習支援等の実施、地域交流スペースではカフェ等で実施で活用。 ●地域見守りネットワーク会議へ区内の会員生協とともに出席。 	—

【柱4】地域の見守り支えあい							
課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(1)地域における見守り支えあいの推進と、交流の場や機会の創出	<p>●気軽に地域の情報に触れ、中野のまちに関心や愛着を持ち、区や地域を身近に感じることができるための取組を進める。</p> <p>●常日頃からのご近所同士のつながりやあいさつ等、互いの顔が見え、困りごとがあった時に助け合えるような人間関係が構築される取組を進める</p>	○水道メーターの定期検針や再調査時等において気づいた異変情報を区福祉部署に提供する ○水道・下水道料金支払い困難者を対象とした「支払い猶予の受付」催告文書に福祉部署を明記し案内する	東京都水道局杉並営業所	—	—	●水道メーターの定期検針時に水道使用量の急増などから、居住者の異変を感じ、区福祉部署へ情報提供した事案が4件あった。 ●水道・下水道料金支払困難者を対象に「支払猶予の受付」を行った。また、催告文書に福祉部署の案内を明記した。	—
		屋内停電等の訪問要請があった際、独居と思われる方には、地域とのつながりや公的サービス受容の有無など外部との接点について聴取する	東京電力パワーグリッド株式会社 荻窪支店	—	—	日常業務において、区民のみならずからの訪問要請の際、プライバシーに配慮しつつ独居・高齢者をキーワードに声かけを実施。地域包括支援センターはじめ関係各署へ通報といった具体的事例はないが、訪問サービス員には意識づけしている。	—
		客先訪問時の見守りと自治体の発信する情報の周知	明治安田生命保険相互会社 新宿支社	—	—	①認知症サポートリーダー養成講座を9名が受講・認定となった。区内のオレンジカフェの所在地情報を共有しながら立ち寄りに務めた ②中野区南口商店街の清掃・防犯パトロールに参加。3日間計14名が参加させて頂いた ③お客様訪問時に行政に関する情報を区民の方々に提供	—
		★人とまちを知るための情報発信 ○SNS等の活用による情報発信 ○転入時等の地域情報の提供	地域活動推進課	①近所との付き合いがほとんどない区民の割合	21.6%	20.9%	18%
		身近な地域の人と知り合うきっかけづくり ○地域団体活動支援事業		②住民同士の交流の場があると感じている区民の割合	32.2%	29.7%	40%
		●地域の様々な課題の見える化とその課題を解決するための仕組みづくりを進めるとともに、地域で活動する新たな人材の発掘に向けた取組を進める。 ●地域での活動の核である町会・自治会への加入の促進や町会・自治会活動の担い手として、多くの区民が参加できるよう支援を進める。 ●NPO法人などの多様な公益的な活動 団体が行う、自主的な活動の支援を進める。	○まちなかサロン事業等居場所の立ち上げ支援、助成金、意見交換の場、研修などの実施 ○居場所活動をしている団体の情報交換を行い、コロナ禍での活動のあり方、モチベーションの維持、連携等を支援する ○こどもっとネットinなかの(事務局)を通して助成金の案内や活動PR等を通じて各団体の活動の活性化と、ネットワークを活用した支援活動を展開	①社会的孤立にある人や生きづらさを抱えた方(ひきこもりや外国人世帯等)も含め、様々な区民が参加できる居場所の数(情報掲載できる数)	406か所	居場所情報掲載数362か所	450か所
				②社協が進める「まちなかサロン」の参加人数(延べ参加人数)	2,809人	まちなかサロン参加人数(延べ人数)7,282人	12,000人
				③子どもの貧困に取り組む団体が増加している。(子ども食堂・学習支援50団体)	24団体	子どもっとネットinなかの加入団体数51団体	50団体

【柱4】 地域の見守り支えあい							
課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(1)地域における見守り支えあいの推進と、交流の場や機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の様々な課題の見え方の化とその課題を解決するための仕組みづくりを進めるとともに、地域で活動する新たな人材の発掘に向けた取組を進める。 ●地域での活動の核である町会・自治会への加入の促進や町会・自治会活動の担い手として、多くの区民が参加できるように支援を進める。 ●NPO法人などの多様な公益的な活動 団体が行う、自主的な活動の支援を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護司活動を通じた犯罪・非行の防止、犯罪・非行をした人の立ち直り支援や更生保護の取組 ○保護司活動や「社会を明るくする運動」を通じた犯罪・非行の防止、犯罪・非行をした人の立ち直り支援や更生保護・再犯防止普及啓発 	保護司	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ●すこやか地域ケア会議へのオブザーバー参加(年3回) ●再犯防止推進支援者研修会での講義及び参加 ●「社会を明るくする運動」強調月間において街頭啓発活動や各地区推進委員会で啓発イベントを実施 ●「社会を明るくする運動」作文コンテストを実施。参加学校21校 応募作品753作 	—
		<ul style="list-style-type: none"> ★地域の課題解決に向けた関係機関の連携の強化 ○区民団体連携支援事業 ★町会・自治会と区との連携の強化 ○町会・自治会活動強化支援事業 ★地域における公益的な活動を担う人材・団体に対する支援の強化 ○地域人材育成・マッチング事業 ○地域における公益的な活動団体活性化支援事業 	地域活動推進課	①最近1年間に地域活動に関わっていない人の割合	31.7%	33.3%	25%
		<ul style="list-style-type: none"> ●子育て支援活動の活性化に向け、子育て支援を担う人材の発掘や子育て関連団体のネットワーク化を進める。 ●子育て家庭が地域の中で安心して暮らせるよう、区民相互の助け合いによる子育て支援活動を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民の理解と参加を深めるため、広報紙の発行による活動状況の周知 ○地域内の団体・関係機関との連携による地域の環境の点検及び啓発活動 ○キャンプ、ハイキングなどの事業を通じた子どもと大人、子ども同士、大人同士の交流の機会や体験の場の提供 ○小学生を中心にミニリーダー講習会などを実施し、子どもたちが地域で集まって楽しめる場所の提供 ○育成者及び年少リーダーの養成 ○交流やルールの遵守、体力向上などを目的としたスポーツ大会の開催 ○地区委員や地域の育成者を対象とした研修の実施、地域住民を対象とした講演会の開催 	青少年育成地区委員会	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ミニリーダー講習会…11地区 その他、地区祭りやスポーツ大会等、子どもたちの健全育成に資する行事、活動に取り組んだ。 また、各地区委員会で広報紙を発行し、地区委員会の活動について広報活動を行った。 広報紙発行総回数…33回 広報紙配布総部数…104,391部
	<ul style="list-style-type: none"> ★地域の子育て支援施設の機能強化 ○児童館における子育て活動支援事業 ★子育て関連団体への支援の強化 ○育成団体支援事業 	育成活動推進課	①子育て支援活動に参加した区民の割合	4.7%	3.1%	10%	

【柱4】 地域の見守り支えあい

課題	取組の方向性	団体・区今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(1)地域における見守り支えあいの推進と、交流の場や機会の創出	<p>●特別な配慮を必要とする子どもとその家庭の置かれている状況や特性に応じて、必要な支援が受けられるよう、一貫した相談支援体制の充実を図る。</p> <p>●発達課題や障害のある子どもとその家庭が地域で孤立することがないよう、発達障害等に関する区民の理解の促進や保護者同士がつながり、交流する機会の創出に向けた取組等を推進する。</p>	<p>日本語に不安がある子ども、その保護者、大人向け支援</p> <p>○子どもの発達に合った学習の支援(必要に応じて臨床心理士・言語聴覚士・社会福祉士などが協力)</p> <p>○保護者向けに発達相談等</p> <p>○やさしいほんごクラスの開催</p>	NPO法人 HATI JAPAN 多文化多言語の子ども発達支援	—	—	<p>1.「げつよう②④ひろば」年22回実施。</p> <p>2.「ぐらすひろば」年23回実施。</p> <p>3.「多様なニーズを持つ子ども・保護者を対象とする学習支援・子育て支援事業 いんくるスペースささのみや」年6回実施。</p> <p>4.地域ワークショップセミナー「やさしい日本語で地域の外国人と話そう！～災害時でも日本人と外国人が安心できる居場所をつくる～」2022年9月3日開催 参加者延べ約50人。</p> <p>5.専門家個別相談支援 年14回実施。</p> <p>6.オンラインセミナー「日本語教育と特別支援教育をつなぐ会」年6回開催。</p>	—
	<p>●高齢者の日常生活を支え、支援を必要とする高齢者を早期に見出し、必要な支援につながるよう、地域の見守り・支えあい活動やICT(情報通信技術)を活用した見守りを充実させる。</p> <p>●今後も進展を続ける高齢社会に対応できる体制を構築していくために、関係機関等の連携を推進するとともに、身近な地域における高齢者の相談支援体制を充実させる。</p>	<p>○地域の顔として住民と専門職・行政のパイプ役となる(町会・自治会、防災・都市安全分野、警察署、消防署との連携)</p>	中野区民生児童委員協議会	—	—	<p>日頃より、住民からの相談に応じて行政や関係機関につなぐパイプ役として活動している。</p> <p>令和4年度には、民生児童委員全員に東京都からモバイルPCが配布された。</p>	—
		○地域支えあい見守り活動及び生活支援活動の実施	中野区友愛クラブ連合会	①会員増員計画～仲間を増やそうキャンペーン～	—	<p>”仲間を増やそうキャンペーン”は、友愛クラブの知名度が思いのほか低いことを認識するとともに、PR活動を重点課題としてリーフレットの作成とパネル展を中心に行った。リーフレットは、中野区町会連合会様に協力をお願いし、中野区の町会・自治会回覧ルートと掲示板を利用していただき、全家庭に友愛クラブのPRを行った。パネル展については、中野区本庁舎をはじめ、地区連単位への展開を目標みテスト的に南中野地域他3カ所で行った。令和5年度全地域展開への手応えを実感した。</p>	—
				②地区連合会(以下、地区連)事業の活性化・魅力づくり-	—	<p>1町会1クラブの実現の前に、コロナ禍の影響もあって休会・休止クラブの出現ならびに会員の減少が顕著で、その歯止めを掛ける策を最優先とした。</p> <p>地区連会長会を定例的に行い情報交換を通して、現状把握と活性化・会員減少への諸作を健闘した。令和4年度地区連への助成制度の充実を図った。</p>	—
		★要介護予備軍(年齢の平均よりも機能低下がある方)、介入の必要があるのに介入拒否のある方、情報が届かない方、多問題を抱えている方等へ	中野区地域包括支援センター	○最近1年間に地域活動に関わっていない人の割合	31.7%	33.3%	25%

【柱4】 地域の見守り支えあい

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(1)地域における見守り支えあいの推進と、交流の場や機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の日常生活を支え、支援を必要とする高齢者を早期に発見し、必要な支援につながるよう、地域の見守り・支えあい活動やICT(情報通信技術)を活用した見守りを充実させる。 ●今後も進展を続ける高齢社会に対応できる体制を構築していくために、関係機関等の連携を推進するとともに、身近な地域における高齢者の相談支援体制を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★地域の見守り・支えあいの推進 <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の見守り・支えあい推進事業 ★高齢者の相談支援体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ○すこやか福祉センター整備・運営 ○地域包括支援センター整備・運営 ○地域ケア会議運営 ○アウトリーチ活動の推進 	地域活動推進課 地域包括ケア推進課 すこやか福祉センター	①「何かあったときに相談する相手がいる」と思う高齢者の割合	51.7%	52.2%	55%
		<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全な消費生活の確保 <ul style="list-style-type: none"> ○消費生活相談 ○消費生活普及啓発事業 	区民文化国際課 消費生活センター	②地域包括支援センターを身近に感じる人の割合(50歳代以上)	22.9%	21.7%	30%
	<ul style="list-style-type: none"> ●就労や地域活動等により、いくつになっても居場所を持ち、活躍できる環境の充実を図る。 ●興味・関心や趣味を通じた多様な形での交流・つながりが生まれる環境づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ★孤立を防ぐつながり・交流機会の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○友愛クラブ活動支援事業 ○地域団体活動支援事業 	地域活動推進課 介護・高齢者支援課	①収入のある仕事を週1回以上している65歳以上の区民の割合	27%	25%	35%
				②60歳代以上における地域活動を行っている割合	60歳代: 22.7% 70歳代: 38.3% 80歳以上: 36.5%	60歳:35.1% 70歳:27.3% 80歳以上:35%	45%
(2)避難行動要支援者への避難支援	<ul style="list-style-type: none"> ●地震や台風、局地的集中豪雨など大規模自然災害の発生時における人命の保護を最大限に図るとともに、迅速な復旧・復興に向けた体制づくりを進める。 ●防災活動の担い手の育成や日常的な地域のつながりの形成、自助・共助による防災の取組を進める。 	避難行動要支援者への避難支援 <ul style="list-style-type: none"> ○災害時避難行動要支援者支援事業 	地域活動推進課 防災危機管理課	②飲料水・食料を備蓄している区民の割合	飲料水 60.3% 食料 56.4%	飲料水 61.7% 食料 57.9%	飲料水 75% 食料 65%

【柱5】 生活を支えるサービス、生活を豊かにするサービス								
課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値	
(1)生活支援サービスの質・量の確保	<p>●高齢期も住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、支援が必要な人に適切な医療や介護・生活支援サービスを提供するとともに、ライフスタイルや身体機能に応じて住まい方の選択ができる環境づくりを進める。</p>	<p>★区民それぞれが望む在宅療養生活の実現 ○ACP(アドバンス・ケア・プランニング)普及啓発 ○在宅療養相談窓口 ○在宅療養推進事業</p>	地域包括ケア推進課	①主治医と十分連携が取れているケアマネジャーの割合	43%	47.8%	55%	
		<p>★多様な介護サービスの提供に向けた体制づくり ○要介護度改善推進事業 ○介護人材確保・育成等支援事業 ○地域・社会資源普及啓発</p>	介護・高齢者支援課 住宅課	②「長期療養が必要になった場合に可能な限り自宅や実家で過ごしたい」人の割合	32.7%	36.4%	60%	
		<p>★在宅から入所まで高齢者を支える基盤整備 ○介護サービス基盤施設整備・誘導 ○住宅確保要配慮者入居支援事業</p>	介護・高齢者支援課 住宅課					
(2)住民主体サービスの拡充、民間サービスとの役割、コーディネート機能	<p>●地域の様々な課題の見える化とその課題を解決するための仕組みづくりを進めるとともに、地域で活動する新たな人材の発掘に向けた取組を進める。 ●地域での活動の核である町会・自治会への加入の促進や町会・自治会活動の担い手として、多くの区民が参加できるように支援を進める。 ●NPO 法人などの多様な公益的な活動団体が行う、自主的な活動の支援を進める</p>	<p>★地域の課題解決に向けた関係機関の連携の強化 ○区民団体連携支援事業 ★町会・自治会と区との連携の強化 ○町会・自治会活動強化支援事業 ★地域における公益的な活動を担う人材・団体に対する支援の強化 ○地域人材育成・マッチング事業 ○地域における公益的な活動団体活性化支援事業</p>	地域活動推進課	①地域活動を行っている区民の割合	19.6%	20.9%	25%	
		<p>●区民活動センターを拠点として、地域課題の解決に向けた地域住民の自主的かつ主体的な活動を促進する。 ●地域住民の様々な交流・活動拠点である区民活動センターを、身近な施設として誰もが快適に利用できるよう運営・整備を進める。</p>	<p>区民活動センターを中心とした地域自治・住民活動の促進 ○区民活動センター運営委員会地域活動支援事業</p>	地域活動推進課	①区民活動センターを身近に感じる人の割合	16.7%	19.0%	20%
		<p>●介護が必要となる状態をできる限り防ぎ、健康的な生活を維持・向上し、生き生きと暮らしていくために、高齢者が身近な地域において、日頃から主体的に介護予防に取り組める環境づくりを進める。</p>	<p>飲食を通じた交流</p>	NPO法人 リンク東山	<p>飲食を通じた交流事業の実施回数</p>	○年25回実施	<p>●ミニデイこみの会:50回実施。参加延人数228人 ・認知症の人も、体が弱ってきた人も、元気な人も、共に集まり同じ場と時間を共有することで、自然に互いに支え合う関係性が出来てきた。結果として、偏見という見えない壁が低くなっていった。自分ができることはする、できないことはお任せするのが当たり前。こういった雰囲気のごく自然に芽生えてきたことが成果と考える。 ・定員は会場の広さで決まり10人である。 ●納涼会:コロナ禍で中止。 ●ひなまつり会:1回実施。参加者17人 ●郷土料理:コロナ禍で中止。 ●緑野小交流会:コロナ禍で中止。 ●緑野中交流会:コロナ禍で中止。 ●会食会:コロナ禍で中止。</p>	○年25回実施

【柱5】 生活を支えるサービス、生活を豊かにするサービス							
課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(2)住民主体サービスの拡充、民間サービスとの役割、コーディネート機能	●介護が必要となる状態をできる限り防ぎ、健康的な生活を維持・向上し、生き生きと暮らしていくために、高齢者が身近な地域において、日頃から主体的に介護予防に取り組める環境づくりを進める。	体操を通じた交流	NPO法人 リンク東山	—	—	●太極拳:40回実施。参加延人数395人 ●ロコモ予防体操:6回実施。参加延人数58人 ●ポッチャ:10月から開始。4回実施。参加延人数60人 ●はつらつ体操(音響機器活用プログラム):33回実施。参加延人数275人 ●東山体操:49回実施。参加延人数608人	—
		イベントをとおして地域の高齢者の交流とおしゃべりの場を提供	昭和区民活動センター運営委員会 すてっぷサロン	—	—	「軽い体操とゲームでリフレッシュ」を年8回実施。参加者延べ175名。 コロナウイルス感染症増加のため、2回中止。	—
		住民主体サービスの一環としてサロンや手仕事、シアターなど集える場所の提供	なかのさくらぐみ	—	—	さくら体操22回、さくらサロン11回、さくらシアター11回開催。延べ参加人数1127人	—
		「100歳まで生きる」を目標にフレイル予防の場を提供	東中野うたごえの丘	—	—	音響機器を活用した歌唱や脳トレ、体操を年34回実施した。 参加者延べ713名。 介護予防・フレイル予防に資する活動に取り組んだ。	—
		★区民・団体が主体的に提供する介護予防の取組の促進 ○住民主体サービス支援事業 ○高齢者会館運営	介護・高齢者支援課 すこやか福祉センター	②体操や軽運動など介護予防のための通いの場への参加状況	18.9%	20.8%	25%

【柱6】地域医療

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(1)在宅医療、地域での医療提供の充実と多職種連携の一層の推進	●高齢期も住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、支援が必要な人に適切な医療や介護・生活支援サービスを提供するとともに、ライフスタイルや身体機能に応じて住まい方の選択ができる環境づくりを進める。	ホームホスピス、居宅介護支援、デイサービス、訪問介護、訪問看護ステーション等の運営、終末期医療や地域包括ケア等についての普及啓発活動	特定非営利活動法人なかの里を紡ぐ会	—	—	ホームホスピス:定員5名 ベッド稼働率95% 看取り2名。最期まで口から食べる為の食支援・自然な排便ケア、吸引などの医療的ケアに取り組む。 中野フリー活動栄養士会と連携し、嚥下困難のある人への食を研究した。 介護事業実績(延べ利用者数):居宅介護支援:812名、デイサービス:2182名、訪問介護:5998名、訪問看護:4754名 普及啓発事業:MIKAN(みんなで考える中野ネットワーク)のメンバーとして中野ダイバーシティフェスタに参加し、認知症に関して講演会等を実施した。帝京平成大学看護学部・薬学部学生の地域実習受け入れ。薬学部学生は「オレンジバルンフェスタミニ」(緩和ケアの普及啓発事業)として「ホームホスピス」についての報告会を行った。	—
		東京都区西部緩和ケア連携推進事業の相談支援部会の相談窓口や、冊子「がんと共に生きる」の作成	NPO法人ピクニックケア	—	—	新宿中野杉並区を医療圏域としたがんの緩和ケア、在宅療養支援のための冊子を病院看護師、在宅看護師、病院MSW、ケアマネジャーの代表者と連携し作成し窓口として中野区内医療介護及び行政に配布した。また、1/15(日)にアロハデイサービスを会場としてがんと食をテーマにフォーラムを開催した。	—
		★区民それぞれが望む在宅療養生活の実現 ○ACP(アドバンス・ケア・プランニング) 普及啓発 ○在宅療養相談窓口 ○在宅療養推進事業	地域包括ケア推進課	①主治医と十分連携が取れているケアマネジャーの割合	43%	47.8%	55%
			②「長期療養が必要になった場合に可能な限り自宅や実家で過ごしたい」人の割合	32.7%	36.4%	60%	
	●区民の誰もが、身近な地域で安心して必要な医療を受けられる体制づくりを進める。 ●医薬品の安全・安心を確保するため、事業者等への指導を行うとともに、区民が適切に医薬品を使用できるよう普及啓発を進める。	★地域での医療提供の充実 ○地域医療機関整備の検討 ○地域医療連携 ○休日診療・小児救急医療体制整備	保健企画課	①地域の救急医療体制が整っていると思う人の割合	74.5%	77.8%	80%
		★保健所機能の強化 ○保健所機能強化 ○医療安全相談窓口事業	保健企画課 保健予防課 生活衛生課				
★薬局等における安全管理体制の充実 ○医薬品販売業者等監視指導 ○医薬品等検査 ○残薬整理事業		保健企画課 生活衛生課	②かかりつけ医を決めている区民の割合	64.4%	71.4%	80%	

【柱6】地域医療

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(2)かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の推進	●区民の誰もが、身近な地域で安心して必要な医療を受けられる体制づくりを進める。	○中野区の医療行政全般(学校医など学校保健、予防接種、乳幼児健診、妊婦健診、区民健診、休日診療、小児初期救急医療、災害時医療など) ○産業医の育成、紹介 ○区民に対するかかりつけ医紹介、栄養指導等 ○訪問看護、訪問介護等と連携した在宅療養の推進 ○これまでの取組の継続(主治医による相談支援の強化、すこやか福祉センター地域包括支援センター、社会福祉協議会等との連携強化、健診への理解促進、病病・病診・診診連携の推進、ICT活用による情報共有の推進など) ○新たに①在宅医療を行う医療機関の増加、②認知症に対応できる医療機関の増加、③障害児者に対応できる医療機関の増加、に取り組む(研修会等の実施、会員メーリングリストを利用した啓発活動等)。	一般社団法人、中野区医師会	かかりつけ医を決めている区民の割合	64.4%	71.4% 2022年度は新型コロナウイルス感染症の対応を重点的に行った。保健所、病院、診療所と連携し、ワクチン接種の推進、診療、検査を実施した。また、保健所、フォローアップセンターから依頼を受け、在宅療養者の遠隔診療82件、往診6件に対応した。また、東京都から依頼のあった酸素・医療提供ステーション等の派遣依頼に対応し、医師を5名派遣した。 区内の医療全般等、これまでの取り組みを継続し実施した。在宅療養の推進として、中野区地域包括ケアに協力し、各種会議へ医師を派遣した。在宅療養(摂食嚥下機能)支援事業で研修会を年7回開催し、多職種340名が参加した。在宅難病患者訪問診療事業にて主治医、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、ケアプランセンターと連携し、55件の患者訪問およびケース検討会を実施した。	80%

【柱6】地域医療

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(2)かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の推進	●区民の誰もが、身近な地域で安心して必要な医療を受けられる体制づくりを進める。	○中野区歯科健診事業 成人・妊産婦・1歳6か月児・3歳児・5歳児歯科健診 ○休日歯科健診、歯科医療拠点事業 ○区内学校歯科健診（保育園、幼稚園、小学校、中学校） ○なかの歯と口の健康支援センター（障害児歯科診療、訪問診療、在宅口腔リハへの支援、区民への相談対応、各種福祉施設との連携など） ○一般介護予防事業「口腔機能・栄養向上プログラム」なかの・からだナビ（令和5年度より変更） ○区民のための「お口の健康講座」8020表彰 ○なかの健康づくりフェスタでのすこやか家族表彰（3歳児表彰）	一般社団法人 中野区歯科医師会	○かかりつけ歯科医を持つ区民の割合	61.7%	<ul style="list-style-type: none"> ●中野区歯科健診事業 成人 6,397人 妊産婦 747人 1歳6か月児 1,785人 3歳児 1,566人 5歳児 1,017人 ●休日歯科診療 241人 歯科医療拠点事業 来院患者 88人 電話相談 28回 ●区内学校歯科健診 保育園 84園 幼稚園 2園 小学校 21校 中学校 9校 ●なかの歯と口の健康支援センター 障害児(者)歯科診療 797人 訪問診療支援 69件 在宅口腔リハへの支援 21件 区民への相談対応 55件 各種福祉施設との連携(歯科健診と健康相談) 64回 ●介護予防事業「なかの元気アップセミナー口腔機能向上プログラム」 1コース 2人 2コース 5人 ●区民のための「お口の健康講座」8020表彰 136人 ●なかの健康づくりフェスタでのすこやか家族表彰(3歳児表彰) 86人 	75%
				○定期的にかかりつけ歯科医に通っている区民の割合	—	—	35%
				○成人歯科健診受診率	3.3%	3.6%	7%
				○在宅および施設療養者で口腔ケアを受けている区民の割合	—	<ul style="list-style-type: none"> ○なかの歯と口の健康支援センター 障害児(者)歯科診療 797人 訪問診療支援 69件 在宅口腔リハへの支援 21件 区民への相談対応 55件 各種福祉施設との連携(歯科健診と健康相談) 64回 	70%

【柱6】 地域医療							
課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(2)かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の推進	●区民の誰もが、身近な地域で安心して必要な医療を受けられる体制づくりを進める。	○健康サポート薬局による健康相談・指導・セルフ・メディケーション指導・健康講座の開催 ○来局時の利用者の状態変化の把握と発症前の早期発見・受診勧奨、関係機関紹介、かかりつけ薬局の推進 ○主治医や在宅チームとの連携強化 ○残薬管理、服薬指導 ○衛生材料・介護用品の提供体制整備 ○生活や保健衛生状況の確認 ○かかりつけ薬局での24時間相談対応 ○在宅訪問による服薬指導・管理 ○見守り支援(SOSの早期発見) ○地域住民から徘徊等の情報受信	一般社団法人 中野区薬剤師会	○健康サポート薬局数の割合	—	6件 5%	25%
				○健康講座開催回数	—	3回	2回/年
				○薬局のうちかかりつけ薬局の割合	—	100%	すべて
				○在宅訪問指導実施薬局	—	91%	95%
				○認知症サポーターの割合	—	30%	95%

【柱7】セーフティネット

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(1) 包括的な自立支援の推進	●潜在的な要支援者を早期に発見し、本人やその家族に必要な相談支援につなぐため、地域のネットワークなどを通じた取組を進める。	地域の身近な相談者として、支援が必要な人から話を傾聴し、関係機関に支援の依頼を行う	中野区民生児童委員協議会	—	—	区からの依頼により、毎年行っている高齢者訪問調査では、75歳以上の単身者及び高齢者のみ世帯を訪問し、生活状況やお困りごとを伺い、必要なサービスにつなげた。	—
		高齢者等家族をケアしている介護者家族(ヤングケアラーも含む)に関して、支援を必要としている人の発見や支援体制の構築に向けた情報発信や連携協力	中野区介護サービス事業所連絡会	—	—	●ヤングケアラー地域連携協議会に世話人として介護支援専門部会から参加した。 ●11月10・11日には中野区と共催で介護の日イベントを開催し、パネル展示やチラシの配布、福祉用具の展示、体験などを通じ、各種サービス、相談機関の紹介などを行った。 ●オレンジカフェの主催及び場所の提供、フードパントリーの実施や相談窓口の設置等、各事業所で可能な取り組みを工夫し地域交流を深める活動に取り組んだ。 ●介護予防教室を開催し、地域の高齢者を中心に認知症や身体機能低下の予防体操等を実施した。	—
		○社会的孤立状態にある人や生きづらさを抱えた方へ、住民や関係機関、本人や家族が相談しやすい相談窓口を提供(福祉何でも相談) ○ボランティア活動推進、相互支援の仕組み(はほえみサービス、ファミリーサポートなど)による活動機会の提供や相談支援を行う	中野区社会福祉協議会	①ひきこもり等の生きづらさを抱えた方の新規相談件数	年間15件	福祉なんでも相談 新規相談件数201件、ひきこもり相談新規相談件数70件、合計271件	年間30件
		②ボランティア活動者数(ボランティア保険加入者数)	4,371人	ボランティア保険受付人数3,887人	6,000人		
(2) 貧困対策、自殺対策、犯罪被害者等支援、犯罪をした人の立ち直り支援・再犯防止	●生活に困窮する区民の経済的・社会的な自立に向け、個々の状況に応じた相談支援をはじめ、就労支援や家計改善支援等の一体的な支援体制の充実を図る。 ●生活が困難な状態にある子どもとその家庭に必要な支援が届くよう、行政、地域、民間事業者等が連携・協働して、子どもの学びの支援や生活の支援、経験・体験の機会の充実を図るなど、個々の状況に応じた支援を行う。	○生活困窮者の住まい「つくりいハウス」の開設・運営 ○ホームレス経験者の社会的孤立を防ぐ居場所であり、地域住民との交流の場「潮の路」の運営等、様々な事業の展開	一般社団法人 つくろい東京ファンド	—	—	中野区を中心に個室シェルター24室と支援住宅7室の運営をおこなった。個室シェルターは、10代から70代までの住まいを失った生活困窮者計57人に利用していただいた。また、居場所づくり事業として「カフェ潮の路」を年間を通して週1回開催した。	—
		生活困窮者世帯家庭・不登校・外国籍・一時保護所・児童養護施設・長期入院中の子どもへのeラーニングシステムの提供	学習支援団体CAMEL	—	—	ZOOMにて毎週火曜・金曜に小中学生に数学・英語の授業を年90回実施した。参加者は延べ約6名。学校の授業の復習に関する指導&映像授業の提供を行った。	—
		不登校児・極端に学力不足の子・夜間子どもだけで過ごす時間の多い子・コミュニケーションの苦手な子・高卒認定資格合格を目指す子・その他課題を抱えた子等に対し、学習支援と居場所提供	子ども広場<どんぐり>	—	—	●学習支援 支援回数 180回、支援対象者 延405人 ●相談支援 49回 ●食を通じた居場所作り たこ焼き作ろう・餃子パーティなど 参加者 計72人	—
		その都度勉強したい・自習の場がほしい子どもが集える場の提供	薬師たきび塾	—	—	有料塾に通っていない小中高生を対象に無料で学習支援を行った。開催日時は月の最終週を除く毎週土曜日18～20時。都度申込制として、特に面談などは行わず受け入れている。	—

【柱7】セーフティネット

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(2) 貧困対策、自殺対策、犯罪被害者等支援、犯罪をした人の立ち直り支援・再犯防止	●生活が困難な状態にある子どもとその家庭に必要な支援が届くよう、行政、地域、民間事業者等が連携・協働して、子どもの学びの支援や生活の支援、経験・体験の機会の充実を図るなど、個々の状況に応じた支援を行う。	○地域住民や子どもたちへみらいひろば(居場所、情報交換の場)や学習会の開催 ○学習支援「みらい塾」の取り組み協力 ○ひとり親家庭の高校生への奨学金給付	生活協同組合コープみらい	—	—	●みらいひろば 中野区内施設2会場にて毎月1回開催(参加者のべ267人) 地域の方々の交流や情報交換の場を提供するとともに、区内の他団体等を講師に学習会などを開催。 ●NPO法人キッズドア主催の学習支援「みらい塾」へ会場提供やおやつ提供の形で協力(年間24回 生徒数20人)。 ●2022年度コープみらい奨学生に972名の申請があり、600名への給付が決定・月1万円の奨学金を返済不要で給付(3学年合計1,047名)。 ●11/27開催 コープみらいミニミニフェスタinコーププラザ新中野にてフードドライブを実施。寄せられた食品は桃園地域の「桃園フードパントリー」を通じて、約100人の生活困窮されている区民に寄付。	—
		常設型のフードパントリー体制の確立	中野区社会福祉協議会	—	—	●中野つながるフードパントリー5地区で開催 502世帯へ提供 ●社会福祉法人施設での食料配布18施設の協力で37件 ●社会福祉協議会窓口での食料配布633件	—
		○子どもからお年寄りまでが夕食を共にする地域交流の場の提供、 ○1人親家庭及び多子家庭向けのフードパントリー	ぬまぶくろワイワイ食堂	—	—	●お弁当の提供 つつじ会館(年11回,計1,104食) 新井地域センター(年7回,計699食) ●フードパントリー 年12回,50家庭,計600家庭 ※2022年度で終了	—
		地域の子どもへのお弁当の配食	こども食堂 Annkaffeekanne	—	—	毎月第三水曜日、年12回、こども食堂を実施した。参加者延べ人数約770人。子どもと保護者の生活支援、地域社会のつながり作りに取り組んだ。	—
		ひとり親世帯、子育て世帯、若くて貧困状態にある方向けに、食材・食品の提供	東部町会フードパントリー	—	—	令和4年8月7日(日)子育て世帯を中心に食材・食品の提供を行った ●寄付等の受付期間 6/20~7/7 ●協力者 延200名 ●寄付総額 49団体 577,127円 ●寄付物品総件数 219件 ●食品提供先 延100世帯 東部在住子育て世帯 96世帯 子ども若者支援センター 3世帯 社会福祉協議会 1世帯	—
		①こまちゃんパントリー：子育て世帯の方向けに、食生活応援として、食材・食品の提供 ②さくらフードパントリー：食生活にお困りの方に、相談支援、食品や寄付物品(生活用品)を提供	こまちゃんパントリー さくらフードパントリー	—	—	<こまちゃんFP> ●毎月1回の定例の他、個別に随時開催を行った。 ●クリスマスには施設の高齢者と協力して、お楽しみプレゼント(お菓子)会を行った。 <さくらFP> ●個別相談の都度随時提供 <こまちゃん・さくら>合計104件	—
		子ども向け食堂、配食	エブロン若菜	—	—	子ども食堂でお弁当の配布を年を22回実施した。参加者延べ約900名	—
		●誰もが自殺に追い込まれることのない社会の実現に向けて、関係機関との連携を図るとともに、区民と協働しながら全ての人に生きることを支える支援を進める。	★自殺を未然に防ぐ体制の整備 ○自殺対策メール相談事業 ○自殺対策普及啓発 ○中野区自殺対策審議会	保健予防課	①自殺死亡率(10万人対)	17.6人	13.9人

【柱7】セーフティネット

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(2) 貧困対策、自殺対策、犯罪被害者等支援、犯罪をした人の立ち直り支援・再犯防止	●犯罪や非行を防ぐとともに、犯罪や非行をした人の立ち直りを支え、地域で孤立させないため、保護司、更生保護ボランティア団体、関係機関・団体等と区が連携した取組や支援を行う包括的な体制の構築を進める。	○保護司活動を通じた犯罪・非行の防止、犯罪・非行をした人の立ち直り支援や更生保護の取組 ○保護司活動や「社会を明るくする運動」を通じた犯罪・非行の防止、犯罪・非行をした人の立ち直り支援や更生保護・再犯防止普及啓発	保護司	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ●すこやか地域ケア会議へのオブザーバー参加(年3回) ●再犯防止推進支援者研修会での講義及び参加 ●「社会を明るくする運動」強調月間において街頭啓発活動や各地区推進委員会で啓発イベントを実施 ●「社会を明るくする運動」作文コンテストを実施。参加学校21校 応募作品753作 	—
		犯罪や非行の防止のための啓発活動や、少人数の区民による対話集会(ミニ集会)の実施、矯正施設の慰問、保護司への協力などの他、子育て支援活動等の地域社会づくり。	中野区更生保護女性会	—	—	<p>コロナ感染防止措置により制限を加え活動しました。 5月の総会1月の新年会は人数制限をし実施しました。 3月研修会を実施しました。</p>	—

【柱8】子どもと子育て家庭、障害者及び高齢者特有の課題

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(1)子どもと子育て家庭特有の課題	●子育て支援活動の活性化に向け、子育て支援を担う人材の発掘や子育て関連団体のネットワーク化を進める。 ●子育て家庭が地域の中で安心して暮らせるよう、区民相互の助け合いによる子育て支援活動を促進する。	理由を問わない乳幼児の一時預かり (要事前申し込み)	さぎのみや・あいあいサポート	—	—	●実施回数:毎月原則第2火曜日、全11回(8月休み) ●実施場所:中野区若宮児童館2階地域活動室 ●参加人数:延預かり人数64人 延従事者数75人	—
		乳幼児と保護者がのんびり過ごせる場の提供	すくすくクラブ	—	—	見守りスタッフに向けて懇談会(研修を兼ねる)を令和4年12月2日及び12月5日に実施。全スタッフ45名中同日にて30名参加。主催事務局6名。日頃の見守りの取り組み方と各人の感想質問を受けた。	—
		乳幼児と保護者が集える場の提供	子育ての輪なかの	—	—	メイン事業である「なかママひろば」は1年間で延べ398組827名の参加があった。「ひろば内一時保育」「なかママEats」「幼稚園選び情報誌発行」など新たな取組もスタートし、支援の範囲を広げている。区や施設の職員さん等との関係を深めたり、子育て支援活動をしたい区民へノウハウ提供やコラボ企画開催も行った。	—
		図書館や保育園などで読み聞かせや人形劇などの公演を実施	おはなしびっくり箱	—	—	区内保育園4か所にて年5回、児童館等乳幼児施設にて年11回、区内図書館にて年24回、区内キッズプラザにて年12回本の読み聞かせや人形劇の公演を行った。	—
		子育て支援・世代間交流	こども食堂さくら	—	—	●実施回数:月1回 ●実施場所:若宮児童館 ●延参加人数:907人	—
		(区からの受託事業) ○産後のお母さんの交流会(ウェルカム!!はじめてママ) ○妊婦さんクラス ○多胎児交流会 ○0歳赤ちゃん、あつまれ!(児童館交流会) ○総合防災訓練(南部・北部)講座 (独自事業) ○多胎児交流会 ○オンラインでテーマ毎の情報交換 ○抱っこひも体験会	東京都助産師会新宿中野杉並地区分会	—	—	(区からの受託事業) ●ウェルカム!!はじめてママ年36回 ●妊婦さんクラス年12回 ●多胎児交流会 年5回 ●0歳赤ちゃん、あつまれ!(児童館交流会)年8回 ●オンライン両親学級 年4回 ●総合防災訓練(南部・北部)講座 (独自事業) ●多胎児交流会 ●オンラインでテーマ毎の情報交換 年12回 ●オンライン母親学級 年12回 ●抱っこひも体験会 年16回	—
		乳幼児ママの育児の悩みや思いを分かち合う会、子育てに役立つ講座等を毎月開催。その他に「子育て環境向上委員会」との共催で、公園に向かう子育て広場「おさんぽかふえドーナツ」を実施。	きんぎょの会	—	—	—	社会福祉協議会の在宅福祉助成金を申請。きんぎょの会は年間11回の子育て支援講座を実施。174名が参加。「おさんぽかふえドーナツ」は年間13回の子育て広場や親子イベントを実施。438名が参加。(資料別添)地域で孤立しがちな乳幼児親子の仲間づくりと子育ての後方支援を行なった。
★地域の子育て支援施設の機能強化 ○児童館における子育て活動支援事業 ★子育て関連団体への支援の強化 ○育成団体支援事業	育成活動推進課	①子育て支援活動に参加した区民の割合	4.7%	3.1%	10%		

【柱8】子どもと子育て家庭、障害者及び高齢者特有の課題

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(1)子どもと子育て家庭特有の課題	●子どもたちが、遊び、学び、体験ができる機会や場を充実するため、放課後等の子どもの居場所の整備を進める。	子どもの遊び・体験の場の確保 ○児童館等整備・運営 ○プレーパーク活動支援事業	育成活動推進課	②子育て応援とうきょうバス ポート協賛店舗数	73店舗	81店舗	150店舗
		放課後の児童の居場所の確保 ○キッズ・プラザ整備・運営 ○区立学童クラブ整備・運営 ○放課後子ども教室事業 乳幼児親子の居場所の確保 ○子育てひろば整備・運営	育成活動推進課				
	●子育て家庭にとって魅力的な施設や子育て家庭にやさしい店舗の充実を図る。	子育て家庭にやさしい店舗の充実 ○子育て関連店舗の登録促進、情報発信	子ども・教育政策課				
	●発達課題や障害のある子どもへの教育的ニーズに応じた指導を推進し、インクルーシブ教育のより一層の充実を図る。 ●適切な教育環境を選択できるように、早期から保護者の理解を促進するとともに、関係機関との連携や専門的知見に基づく就学相談等の取組を推進する。	○関係機関との支援会議の実施 ○在籍児童生徒の保護者以外からも学校相談・心理相談の実施	東京都立中野特別支援学校				
(2)障害者特有の課題	●特別な配慮を必要とする子どもとその家庭の置かれている状況や特性に応じて、必要な支援が受けられるよう、一貫した相談支援体制の充実を図る。 ●発達課題や障害のある子どもとその家庭が地域で孤立することがないよう、発達障害等に関する区民の理解の促進や保護者同士がつながり、交流する機会の創出に向けた取組等を推進する。	重症心身障害の子を持つ親が、親・子ともに安心していきいきと生活できるよう情報交換や情報共有、要望の整理等	中野区重症心身障害児(者)を守る会	—	—	①インターネットを活用した活動 毎月の定例会、要望の整理、情報共有、会報のための連絡等 ②会報の発行 ③対面での会合(Zoom参加のハイブリッド) 学習会、懇談会、情報交換会等 参加延べ人数 85人(会場44人、Zoom参加41人)	—

【柱8】子ども子育て家庭、障害者及び高齢者特有の課題

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(2)障害者特有の課題	<p>●障害者及び介護者の高齢化、障害の多様化・重度化など個々の置かれている状況や特性に応じて、切れ目なく必要な支援やサービスが受けられるよう相談支援体制の充実を図る。</p> <p>●重度障害者をはじめ障害者が地域で安心して暮らせるよう、関係機関との連携や人材育成を進めるとともに、障害者の地域生活への移行を支える基盤の整備を着実に進める。</p>	<p>中野区及び、その近隣区にお住いの障害者の方達へ</p> <p>○ホームヘルプ事業</p> <p>○グループホーム事業</p> <p>○障害者自立支援事業</p>	<p>特定非営利活動法人ねこの手</p>	—	—	<p>①ホームヘルプ事業…アシストセンターねこの手を運営する。障害者総合支援法に基づきホームヘルパー派遣を実施し、また各区の地域生活支援事業実施要綱に基づき移動支援サービスを実施した。</p> <p>②グループホーム事業…グループホームにじいろを運営する。開設3年にあたり、R5年3月第三者評価結果報告書を受理</p> <p>入居者の誕生日会などグループホーム近隣公園夜桜見学イベントを実施</p> <p>R5年度も災害を想定して、避難場所へ避難訓練実施</p> <p>③障害者自立支援事業…障害者自立支援事業として、『障害者も楽しめるサロン活動事業』として、新型コロナウイルス感染予防の観点から対面でのイベントは取り止め、オンラインカフェ、音楽会は演奏した動画をネット配信するなどの活動を行った。講演・経験交流会については時期尚早と判断し、来年度に延期した。昨年度に引き続き、自立支援協議会などを通じて、中野区の障害者福祉政策へ提言を行った。</p>	—
		<p>○視覚障がい者を対象に、自立支援法下における同行援護、居宅介護サービスに加え、地域生活支援事業としての、代筆・代読支援サービスを提供。</p> <p>○音声版「声のなかの区報」「声のないせす」「声のなかの区議会だより」の作成。個人依頼の取扱説明書や書籍の音声版製作にも対応しています。</p> <p>○徒歩訓練、STT(サウンドテーブルテニス)体験会等</p> <p>○視覚に関するお困りごとの相談もお受けします。</p>	<p>特定非営利活動法人 中野区視覚障害者福祉協会</p>	—	—	<p>●同行援護、居宅介護、地域生活支援事業として、代筆・代読支援サービスを提供。登録ガイドヘルパー79名、登録利用者105名。</p> <p>●音声版「声のなかの区報」22回、「声のないせす」12回、「声のなかの区議会だより」4回、製作。個人依頼 8件。</p> <p>●宿泊徒歩訓練 10/16～17 参加者30名、日帰り徒歩訓練 3/3 参加者31名、STT体験会 13回 参加者延べ321名。</p>	—
		<p>○障害児・者の家族等が研修会、講演会、施設見学を実施。また、行事を開催し、会員間の親睦を深める。</p> <p>○区や関連団体と情報共有等を通して、親同士のつながりを持つ</p>	<p>中野区愛育会 中野区肢体不自由児(者)父母の会 中野区重症心身障害児(者)を守る会 たんぽぽ会 等</p>	—	—	<p>○中野区愛育会○</p> <p>●7月:お楽しみ会「音楽を楽しもう！」 なかのZERO小ホールにて開催 (84名参加)</p> <p>10月:行事・区民福祉講演会(30名参加)</p> <p>11月:バスハイクを実施(47名参加)</p> <p>書道講座を開催(13名参加)</p> <p>その他:交通機関警察への挨拶回りを実施 (約42か所)</p> <p>会報誌を発行</p> <p>○中野区重症心身障害児(者)を守る会○</p> <p>●家族も含めた交流イベントの実施 参加延べ人数27人</p>	—

【柱8】子ども子育て家庭、障害者及び高齢者特有の課題

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値
(2)障害者特有の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●障害者及び介護者の高齢化、障害の多様化・重度化など個々の置かれている状況や特性に応じて、切れ目なく必要な支援やサービスが受けられるよう相談支援体制の充実を図る。 ●重度障害者をはじめ障害者が地域で安心して暮らせるよう、関係機関との連携や人材育成を進めるとともに、障害者の地域生活への移行を支える基盤の整備を着実に進める。 	<p>主に障害児(者)向けに、社会性を身につけることを目的とした空手道場の運営</p> <p>障害者向けのサービスの提供 ○訪問系・日中活動系・施設系サービス ○居住支援系・訓練系・就労系サービス 障害児通所支援事業(放課後等デイサービス)の提供</p>	<p>障害児の休日クラブ</p> <p>障害福祉サービス事業所</p>	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ●毎月4回土曜日に空手稽古を実施 ●空手稽古後に1月はお楽しみ会、12月は忘年会(昇級お祝い会)を開催 ●延参加人数 196名 	—
(3)高齢者特有の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢期も住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、支援が必要な人に適切な医療や介護・生活支援サービスを提供するとともに、ライフスタイルや身体機能に応じて住まい方の選択ができる環境づくりを進める。 	<p>介護予防教室を実施し、運動機能低下の予防・社会参加の減少を食い止める</p> <p>支援を必要としている方の情報の共有や他団体との連携</p> <p>定期的な訪問を希望する高齢者や障がいのある方に対して、1ヶ月に1回定期的に訪問し、近況や健康状態の確認、相談事の受付や申請書類の取り次ぎ業務を行う</p>	<p>公益社団法人 東京都柔道整復師会中野支部</p> <p>中野区介護サービス事業所連絡会</p> <p>東京都住宅供給公社 新宿窓口センター</p>	<p>○介護予防体操終了後も運動継続の意思のある方の割合</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>50%</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>通所型Cの介護予防の体操教室を全48回行い参加者延べ200名弱。</p> <p>2022年度実績 月2回実施 参加者 89人 ・1月に訪問看護部会主催のヘルパー向け研修会「訪問看護師から、利用者様の異変に気付いた時の対応」を開催した。また、訪問介護部会との交流会を開催し、日々のケアの悩みや情報共有を図る機会を設けた。また、地域の関係機関と連携し、支援体制の充実等を図り利用者の安心、信頼にむけた活動を進めた。 ・施設入所やショートステイの運営自体が、施設としての高齢者が住み慣れた地域で生活を続けるための支援の一つであるが、加えて緊急ショートステイの受け入れを可能な限り行うことにより、高齢者本人やその家族にとって安心して住める地域の提供を実施した。</p> <p>「団体・区の今後の取組」欄に記載の業務を継続的にやっている。</p>	<p>70%</p> <p>—</p> <p>—</p>

【柱8】子どもと子育て家庭、障害者及び高齢者特有の課題

課題	取組の方向性	団体・区の今後の取組	関係団体・主管課	指標	2021年度以前の実績	2022年度実績	2025年度の目標値	
(3)高齢者特有の課題	<p>●高齢期も住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、支援が必要な人に適切な医療や介護・生活支援サービスを提供するとともに、ライフスタイルや身体機能に応じて住まい方の選択ができる環境づくりを進める。</p> <p>●介護が必要となる状態をできる限り防ぎ、健康的な生活を維持・向上し、生き生きと暮らしていくために、高齢者が身近な地域において、日頃から主体的に介護予防に取り組める環境づくりを進める。</p>	<p>★区民それぞれが望む在宅療養生活の実現</p> <p>○ACP(アドバンス・ケア・プランニング)普及啓発</p> <p>○在宅療養相談窓口</p> <p>○在宅療養推進事業</p>	地域包括ケア推進課	<p>①主治医と十分連携が取れているケアマネジャーの割合</p>	43%	48%	55%	
				<p>②「長期療養が必要になった場合に可能な限り自宅や実家で過ごしたい」人の割合</p>	32.7%	36%	60%	
		<p>○虚弱高齢者を孤立させないようサロン等へつなげる</p> <p>○居場所づくり・虚弱高齢者の生きがい対策としての役割検討(すこやか福祉センター、地域包括支援センターとの連携)</p>	中野区民生児童委員協議会	—	—	—	地区民生児童委員協議会が主催となって地域サロンを開催し、高齢者が孤立しないよう地域での居場所づくりに努めた。	—
	<p>○健康づくり・介護予防の拠点(居場所)としての友愛クラブ数(1町会・自治会1クラブの実現)の増加と魅力づくり(町会・自治会との連携)</p>		中野区友愛クラブ連合会	<p>①会員増員計画～仲間を増やそうキャンペーン～</p> <p>②地区連合会(以下、地区連)事業の活性化・魅力づくり</p> <p>③行政・町会連合会の支援のもと、区民活動センター機能とのリンク(1町会・自治会、1クラブの実現)</p>	—	—	—	<p>①「仲間を増やそうキャンペーン」は、友愛クラブの知名度が思いのほか低いことを認識するとともに、PR活動を重点課題としてリーフレットの作成とパネル展を中心に行った。リーフレットは、中野区町会連合会様に協力をお願いし、中野区の町会・自治会回覧ルートと掲示板を利用していただき、全家庭に友愛クラブのPRを行った。パネル展については、中野区本庁舎をはじめ、地区連単位への展開を目的に令和5年度全地域展開への手応えを実感した。</p> <p>②1町会1クラブの実現の前に、コロナ禍の影響もあって休会・休止クラブの出現ならびに会員の減少が顕著で、その歯止めを掛ける策を最優先とした。地区連会長会を定例的に行い情報交換を通して、現状把握と活性化・会員減少への諸作を健闘した。令和4年度地区連への助成制度の充実を図った。</p> <p>③従来の「会員増員部」と「地域活動推進部」をワンチームに統合し組織力を強化した。同時に、地区連の活性化の基盤づくりとして町会連合会と同じ15の区民活動センター割に改定、町会・自治会ならびに区民活センターとの関係強化を図った。</p>
	<p>★区民・団体が主体的に提供する介護予防の取組の促進</p> <p>○住民主体サービス支援事業</p> <p>○高齢者会館運営</p> <p>★介護予防に取り組む意識の啓発</p> <p>○介護予防推進事業</p>	介護・高齢者支援課 すこやか福祉センター	<p>②体操や軽運動など介護予防のための通いの場への参加状況</p>	18.9%	20.8%	25%		